ごあいさつ

パラダイム・シフトともいえる教育環境の大転換期の今日にあって、教育はいかにあるべきか問われています。学びたい者が、学びたい所で、学びたい事を学ぶことができる、という根源的で普遍的な学びの願望を、教育機関は、あらためて考え直さなければなりません。

創立以来108年、教育機関としてどうあるべきかを国士舘は問い続けてまいりました。

創立者柴田徳次郎先生は、地域住民が働きながら学ぶ夜間の学校を設置し、強い身体と高い志を持った人材を育てようと発意しました。学校法人国士舘は、この創立の原点に立って、現代社会においては、教育機関としての社会に対する役割と責任を果たそうと努めております。国を思い、社会を支え、人を救うことのできる、強くてたくましい人材を、時代を超えた国士と捉え、その「人財」の養成を教育研究の目的に掲げております。健全な心身の育成のためには武道・スポーツを、社会的な要請に応えるためには防災・救命を柱として、国士舘は政治経済・体育・理工・法律・文学・21世紀アジア・経営の各分野で教育研究に取り組んでおります。また、数理・AI・データサイエンスや副専攻制導入、防災士・ドローン操縦などの取得資格の充実も図っています。

激化する自然災害と戦後の国際秩序の変貌、そして社会の格差と分断の深刻さが進行する中で、国士舘の教育機関としての評価とその必要性は、ますます高まってきております。この社会の負託に応えるために、本学園は第3次中長期事業計画を策定し2025年度～2029年度まで5カ年のビジョンを示し目標の達成を指標化しました。

計画の中軸に置くキャンパス環境整備事業は、「次世代のリーディングキャンパス～KX（国士舘トランスフォーメーション）」をコンセプトとして、学園関係者の総意を結集した7つの方針「学生ファースト」「スマート」「防災」「サステナブル」「ヘルシー」「地域連携・社会協創」「インクルーシブデザイン」を掲げ、完工を10年後に据えたトータルプランです。2025年度より新棟の建設など整備が本格化します。

人間教育を重んじ、社会から強く要請される学園として、国士舘は教職員・学生生徒が一丸となって教育研究・社会貢献に努めてまいります。

現代の国士の一人であった故大澤英雄前理事長が目指された「次世代の教育研究の地平を拓く」ことを実現するべく、後任を拝命した者として全力を尽くす所存です。

このたび国士舘大学の学長を拝命しました。

本学が100年有余にわたり継承してきた建学の精神と教育理念は、私学としての矜持を示すものであるとともに、国士舘の教育における到達目標でもあります。佐藤圭一前学長の尽力のもと、2024年に「全学共通教育科目」が開設され、その核となる自校教育「国士舘を知る」が必修化されました。学生は創立者柴田徳次郎先生の人づくりへの思いや、建学の精神、国士舘の歴史を学びます。そして、4年間の修学を通して教育理念の四徳目「誠意、勤労、見識、気魄」を身につけながら、広い教養と豊富な専門知識、高い技能を備え、建学の精神「国を思い、世のため、人のために尽くせる有為な人材」を体現する「国士」へと成長していきます。

その学びを支えるのが、国士舘が誇る学生ファーストの手厚いサポートです。「人間味溢れる面倒見のよい大学」と言われる国士舘では、教職員が一人ひとりの学生を大切にし、学生たちが抱えている事情に寄り添い、修学の支援をしていきます。国士舘大学は、人を大切にし、共に歩み、共に成長していく文化に満ちています。

７学部10研究科を有する総合大学である国士舘の学びには、多様な個性と活力がみなぎっています。所属する学部・学科・研究科で専門性を深めながら、興味・関心に応じて学びを拡大していく他学部・他研究科の科目履修も開かれています。学部と研究科との連携、分野横断的な研究活動やプロジェクトの遂行も可能です。国士舘大学ならではの総合大学の特性を活かした自分らしいオリジナルな学びを追究してみてはいかがでしょうか。

また、本学が全学的に取り組んでいる「防災教育」と「AI・データサイエンス教育」は、副専攻として誰もが履修することができ、これからの社会で役立つ知識の獲得と能力の開発につながります。またこれらの特徴を活かした本学独自の学際的なシンポジウムなどの行事も推進していきたい取り組みです。

社会人や留学生の受け入れも積極的に行っています。人は生涯、いつからでも学ぶことができますし、学びは人生をより楽しく豊かにすることができます。コロナ禍以降、オンライン技術が普及しましたが、一方で、対面で人と人が関わることの大切さも実感するようになりました。学生の皆さんには、海外や地域での交流・研修などにも積極的に参加し、学内外で人との出会いを大切にしながら、かけがえのない大学生活を有意義に過ごしてもらえればと思っています。

私たちは、学生や卒業生が心の底から「国士舘で学んでよかった」と思い、「国士舘を出た人なら信頼できる」と社会が認める、教育と環境づくりを目指しています。

学校法人国士舘 理事長

瀬野 隆

せの・たかし

1944年京都府生まれ

1967年国士舘大学政経学部卒業

1972年国士舘大学大学院経済学研究科博士課程修了、2005年博士（経済学）（国士舘大学）

1972年国士舘大学政経学部助手として入職。1986年政経学部教授、1995年から1997年まで政経学部長、1997年から2003年まで教務部長、2002年から2003年まで学長室長を務め、2003年から学校法人国士舘評議員および常任理事、2025年2月学校法人国士舘理事長に就任

2008年から2009年まで独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育評価委員、2008年から2011年まで財団法人日本高等教育評価機構評価委員。1998年から日本経済政策学会関東部会理事、2014年から公益財団法人日本高等教育評価機構理事、2025年3月から日本私立大学協会理事

国士舘大学 学長

田原 淳子

たはら・じゅんこ

1963年神奈川県生まれ

1986年横浜国立大学教育学部卒業

1988年横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了、1991年中京大学大学院体育学研究科博士後期課程単位取得、1994年博士（体育学）（中京大学）

中京女子大学健康科学部助教授を経て、2006年国士舘大学体育学部助教授として入職し、2009年体育学部教授。2019年学生部長（2019年から2023年まで、同年10月から2024年まで）、2023年国際オリンピック委員会オリンピック研究センター客員研究員（同年９月まで）、2023年学校法人国士舘評議員、2024年国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科長、同年学校法人国士舘常任理事、2025年４月国士舘大学学長に就任

2014年から国際ピエール・ド・クーベルタン委員会（CIPC）副会長、2018年から国際フェアプレー委員会（CIFP）理事、2023年からウィメンスポーツ・インターナショナル（WSI）理事、2024年から日本ピエール・ド・クーベルタン委員会委員長、2021年からNPO法人ローンボウルズ日本理事など

2021年ヴィケラス賞（国際オリンピック史家協会）受賞、2022年度日本スポーツとジェンダー学会功労賞（日本スポーツとジェンダー学会）受賞など

専門はスポーツ史・スポーツ倫理